

資料 2 ロジックモデルの作成・点検について

2022年9月21日

目次

1. ロジックモデルの作成・点検方法について	3
------------------------	---

2. ロジックモデルの点検結果について	11
---------------------	----

1. ロジックモデルの作成・点検方法について

厚生労働省のEBPMの実践では、EBPM実践対象事業、重点フォローアップ事業、効果検証対象事業を設定しており、それぞれの概要は以下のとおり

厚生労働省の令和4年度EBPMの実践関連事業の種類

種類	選定の考え方	内容	選定期間
EBPM実践対象事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「厚生労働省における令和4年度の実践方針」の選定基準と除外基準によって選出された事業 ■ 基準に該当する事業はすべて対象 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ロジックモデルの作成と活用 ■ 政策立案・評価担当参事官室（以下「政評室」という。）と委託業者（※）が協力してロジックモデルに対して点検 ■ 点検結果を受け、担当課室はロジックモデルをブラッシュアップ 	令和4年5月以降
重点フォローアップ事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ EBPM実践対象事業の中から、「重点フォローアップ事業の選定基準及び対象事業について」（資料3）に沿って選定 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 担当課室へのヒアリングを実施し、ロジックモデルの記載内容、エビデンスの記載内容、効果検証に関してEBPM事務局からコメント送付 ■ 半期に1度、政評室が詳細なフォローアップを実施（令和2年度、令和3年度に選定された事業についてはフォローアップ継続中） 	令和4年9月以降
効果検証対象事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 重点フォローアップ事業の中から、データの活用可能性や事業の展開可能性等を鑑みて選定 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和4年度にリサーチデザインを作成し、令和5年度に事業の実施、令和6年度に効果検証を行う想定 	令和4年12月以降

※委託業者：令和元年度～令和2年度はみずほ情報総研（株）（現 みずほリサーチ＆テクノロジー（株））
令和3年度は三菱UFJリサーチ＆コンサルティング（株）
令和4年度はデロイト・トーマツコンサルティング合同会社

令和3年度有識者検証会における検証結果取りまとめの指摘事項（今後の課題）を踏まえ、今年度も引き続きEBPMの実践の取組を継続する

厚生労働省における令和4年度の取組方針

厚生労働省における令和4年度の取組方針

- 令和5年度概算要求プロセスにおいて、EBPMになじまない事業等(除外基準(※2)に該当する事業)を除き、**①新規事業、②モデル事業、③大幅見直し事業**のうち、一定の選定基準(※1)に該当する事業、**④部局単位で①～③に該当する事業が1つもない場合は、新規事業（新規事業がない場合は既存事業）のうち最も要求額が大きい事業**について、原則としてロジックモデルを作成し、活用する。このうち一部を公表。
- **公開プロセス対象事業**においても、EBPMになじまない事業等(除外基準(※2)に該当する事業)を除き、ロジックモデルを作成し、活用する。
- 予算事業以外(規制等)についても、行革事務局の取組方針に沿って対応する。
- 過年度のEBPM実践対象事業については、その内容を更新するなどして取組を継続する。

※1 一定の選定基準(今後、EBPMの実践等を通じて、毎年度見直しを行う予定)

	事業	概要
①	新規事業	新規に予算要求する事業であり、要求額が 1億円以上 の事業
②	モデル事業	本格的な事業展開に先立って、規模や対象を限って一定の手法を実践することなどを通じ、有効性を検証する事業 ただし、過年度にEBPMの実践対象となった事業を除く。
③	大幅見直し事業	対前年度予算額 50%以上 増加する事業であって、かつ、増加分の差額が 1億円以上 の事業
④	①に該当しない新規事業 又は ③に該当しない既存事業	※ 部局単位で①～③に該当する事業が1つもない場合 ①以外の新規事業(新規事業がない場合は③以外の既存事業)のうち、最も要求額が大きい事業(部局単位) なお、本欄は財務省主計局への概算要求提出時まで適用する。

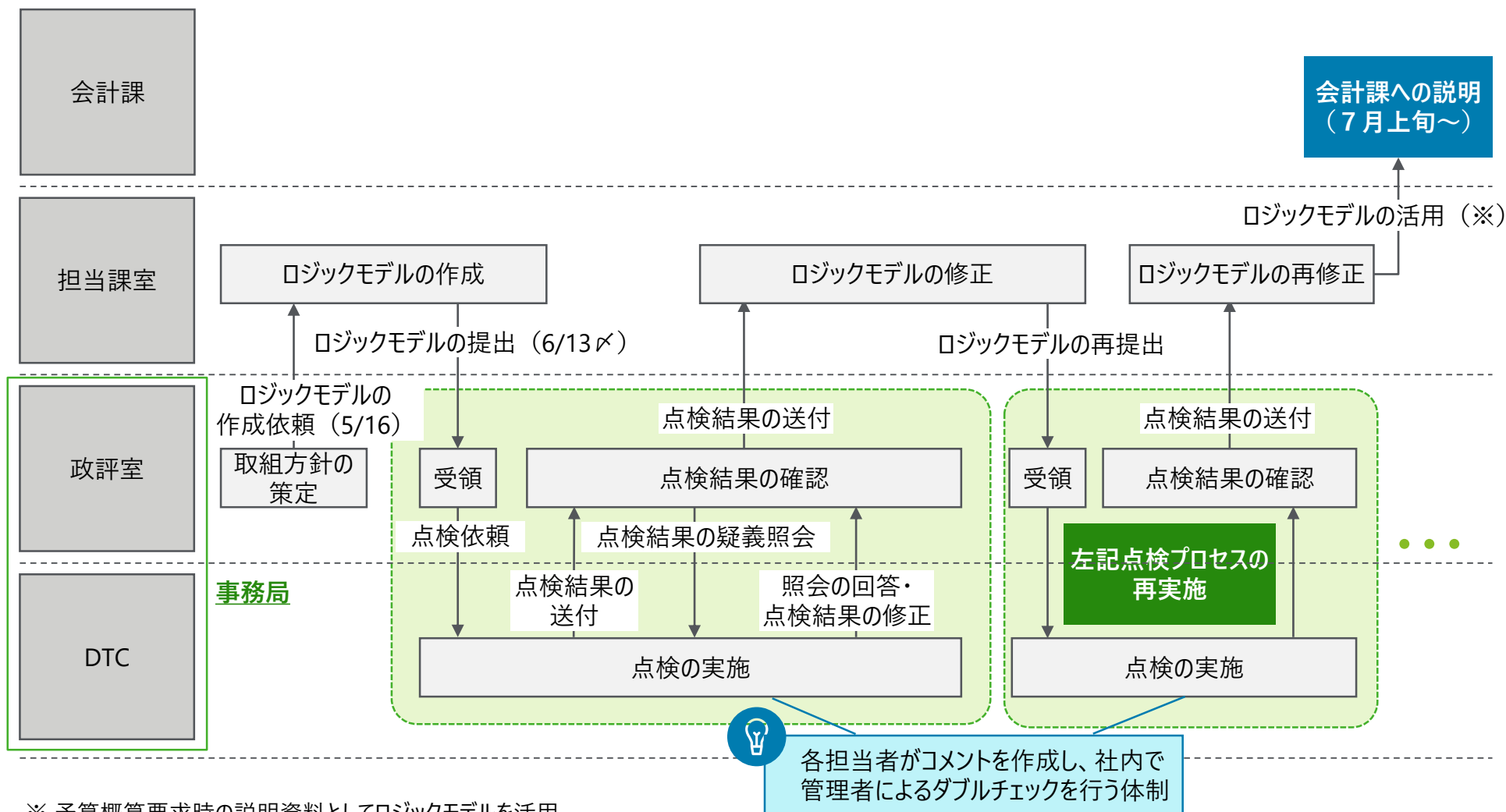
注 年度途中で補正予算対応となった事業についても、令和5年度に事業を継続する場合は、引き続き本年度の実践対象事業とする。

※2 除外基準(ロジックモデルの作成・提出を不要とする。) 注 下記 i～v 以外に、特殊事情によりEBPMの実践が困難な場合には、個別協議の上、判断する。

	事業
i	事業の内容が、現状分析・課題分析を目的とした事業
ii	司法判断により国が実施義務を負うことが明らかな事業
iii	現在の事業において採用されている手法に代わりうる有効な手法を検討することが困難な事業 (外交的判断で意思決定されており、原局レベルで代替案を検討することができない事業等を想定。個別協議の上、判断)
iv	効果検証実施年度(令和6年度)までに終了する事業(モデル事業を除く。)
v	政策目的から遡った政策手段の検討余地がない事業(義務的経費の支出、システム改修、施設整備などの事業で、既定方針の実施過程にあるもの)

会計課への説明（7月上旬）での活用を当面の目標として、各担当課室にてロジックモデルを作成。事務局にて点検を行い、点検結果のフィードバックを複数回実施

E B P M実践対象事業のロジックモデルの作成・点検・活用フロー



※ 予算概算要求時の説明資料としてロジックモデルを活用

ロジックモデル 1 シート目では、現状分析、課題、事業概要、インプットからインパクトまでの論理展開を記入する

今年度のロジックモデル様式①

1 シート目

事業名	レビュー番号		担当部局・課室			
現状分析		課題		事業概要 【 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 既存 <input type="checkbox"/> モデル <input type="checkbox"/> 大幅見直し】		
【インプット】		【アクティビティ】	【アウトプット】	【短期アウトカム】	【長期アウトカム】	【インパクト】
令和 5 年度 概算要求額 (単位：百万 円)						
				【長期アウトカムに関連する事業】		

(出所)「令和 4 年ロジックモデル様式」(厚生労働省作成)

ロジックモデル 2 シート目では、1 シート目に記入した内容の論理展開の妥当性や課題解決の手段としての当該事業の妥当性、効果検証方法を記入する

今年度のロジックモデル様式②

ロジックの確認 ①

2 シート目

【論理展開の妥当性の確認】
インプット⇒アクティビティ⇒アウトプット⇒短期アウトカム⇒長期アウトカム⇒インパクトの論理展開が妥当か、以下の確認項目に従ってチェックすること。

✓	確認項目	留意点
<input type="checkbox"/>	短期アウトカムが改善すれば、長期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、長期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、短期アウトカムを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。
<input type="checkbox"/>	アウトプットが改善すれば、短期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、短期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、アウトプットを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。
<input type="checkbox"/>	長期アウトカムから遡って考えたときに、アクティビティがアウトカムの改善に寄与するものになっているか（ボトルネックを解決する事業になっているか）。	寄与するものになっていない場合は、長期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、アクティビティを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。
<input type="checkbox"/>	関連事業も含めて考えたときに、課題解決に寄与する事業となっているか。	他事業も含めて、課題解決に寄与する事業となっているかを確認してください。

ロジックの確認 ②

効果検証方法

【課題解決の手段としての当該事業（アクティビティ）の妥当性】

1 効果検証に当たっての項目整理

P：事業の対象	I：事業内容	C：比較対象	O：アウトカム

2 効果検証の分析手法等

EBPM取組体制	役職	氏名	内線
（課室長クラスの方も含めること） ※別途案内するEBPM研修の対象者に該当			

ロジックモデル3シート目では、1シート目で設定した指標（アウトプット、短期アウトカム、長期アウトカム）の目標水準及び目標達成時期の設定理由や調査名等を記入する

今年度のロジックモデル様式③

【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】			3シート目
指標名	目標値（水準）の設定理由	目標達成時期の設定理由	設定した指標を算出する調査名等
アウトプット①			
アウトプット②			
アウトプット③			
アウトプット④			
アウトプット⑤			
アウトプット⑥			
短期アウトカム①			
短期アウトカム②			
短期アウトカム③			
短期アウトカム④			
短期アウトカム⑤			
短期アウトカム⑥			
長期アウトカム①			
長期アウトカム②			
長期アウトカム③			

（出所）「令和4年ロジックモデル様式」（厚生労働省作成）

「ロジックモデル点検結果コメントシート」（参考２）に基づき、特に以下の観点に着目し、ロジックモデルの点検を実施

ロジックモデル点検の主な観点

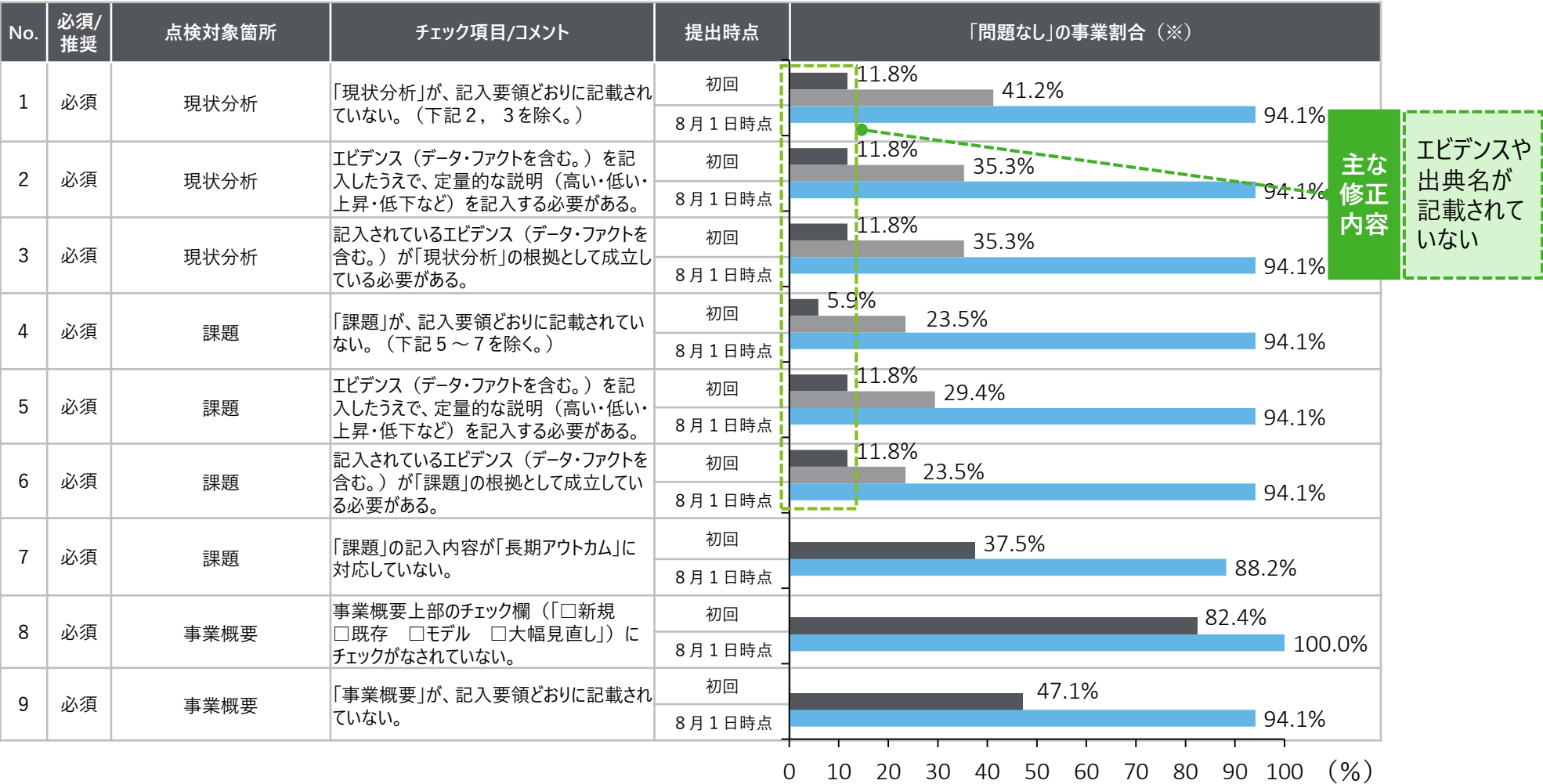
項目		主な点検内容
1 シート目	現状分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ エビデンス（統計等データや研究成果）やデータ出典を示しながら記入されているか ✓ 現状分析と課題の書き分けがされているか
	事業概要・アクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業概要とアクティビティの内容が一貫しているか ✓ アクティビティは実施項目別に細分化・具体化されているか
	アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アクティビティに応じたアウトプットが記入されているか
	アウトカム（短期・長期）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業の期待される成果として、定量的な指標が可能な範囲で設定されているか ✓ 目標達成時期が設定されているか
2 シート目	ロジックの確認①	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 要素項目間（アクティビティ・アウトプット・アウトカム）の流れに論理的整合性が成立しているか ✓ 短期アウトカムと長期アウトカム間で飛躍がないか
	ロジックの確認②	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 当該事業を行うことで課題が解決できることをエビデンス（統計等データや研究成果）を用いて記入されているか ✓ 参照しているエビデンスが妥当か
	効果検証方法	<ul style="list-style-type: none"> ✓ PICOが適切に設定されているか ✓ 比較対象の設定（例：実施地域と未実施地域）が妥当か ✓ 分析に必要なデータの収集方法が事前に検討されているか
3 シート目	指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 指標の設定理由ではなく、指標の目標水準の設定理由（具体的な数値の根拠）が記入されているか ✓ 目標達成時期の設定理由が妥当か
	指標を算出する調査名等	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 定量的な指標を設定している場合、指標の算出に用いる調査名等が適切に記入されているか

2. ロジックモデルの点検結果について

現状分析・課題・事業概要は、事務局の点検を経て、約 9 割が「問題なし」と判定できる
記載内容となった。現状分析・課題は、エビデンスの不備等が主な修正内容であった

各項目の点検結果① 現状分析・課題・事業概要

■：初回評価時点で、「問題なし」と判断された事業の割合（軽微な修正内容を含む。）
■：初回評価時点で、「問題なし」と判断された事業の割合（軽微な修正内容を除く。）
■：8 月 1 日時点で、「問題なし」と判断された事業の割合

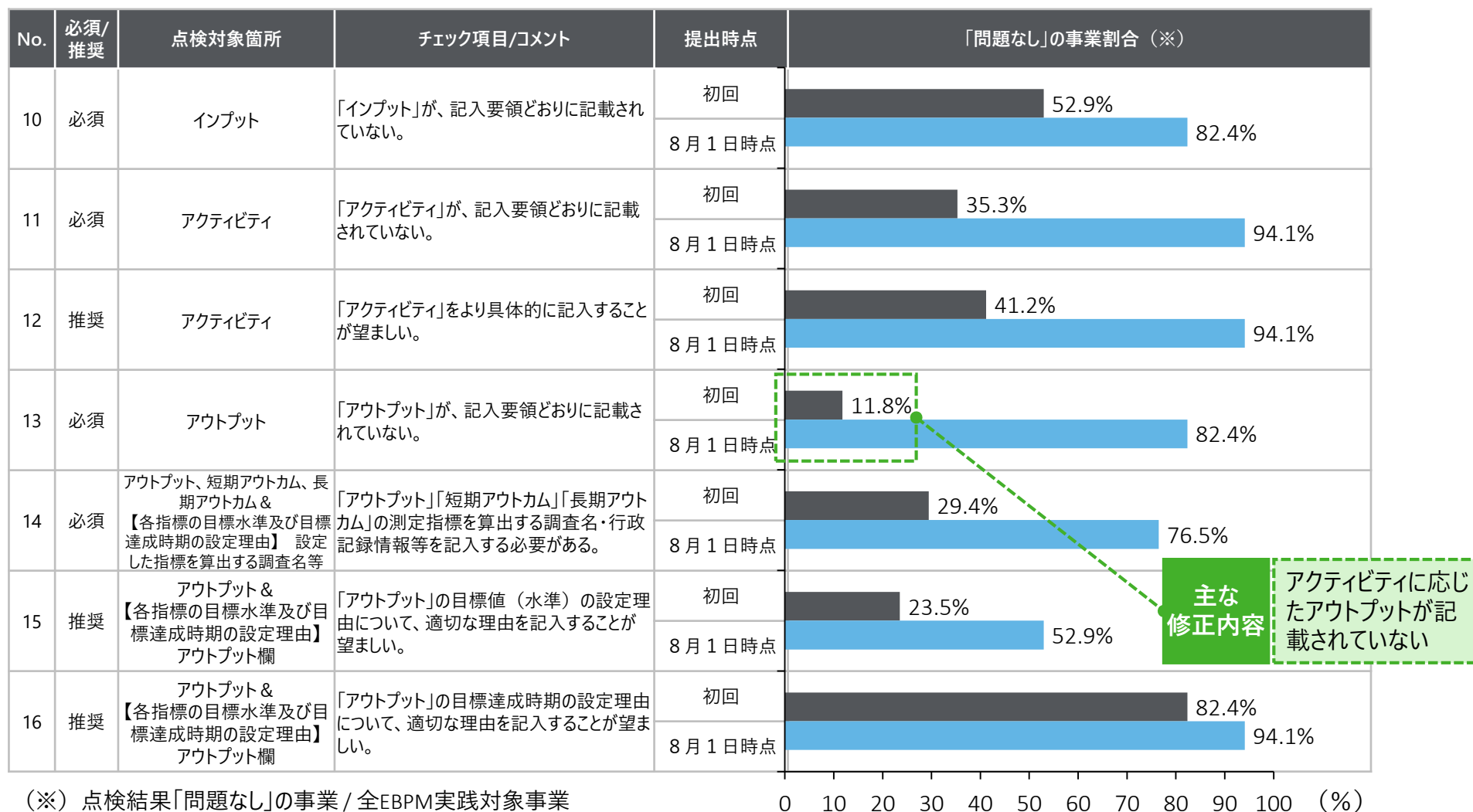


（※）点検結果「問題なし」の事業 / 全EBPM実践対象事業

インプット・アクティビティ・アウトプットは、事務局の点検を経て、5～9割程度が「問題なし」と判定できる記載内容となった。アウトプットは、アクティビティとの不整合が多かった

各項目の点検結果② インプット・アクティビティ・アウトプット

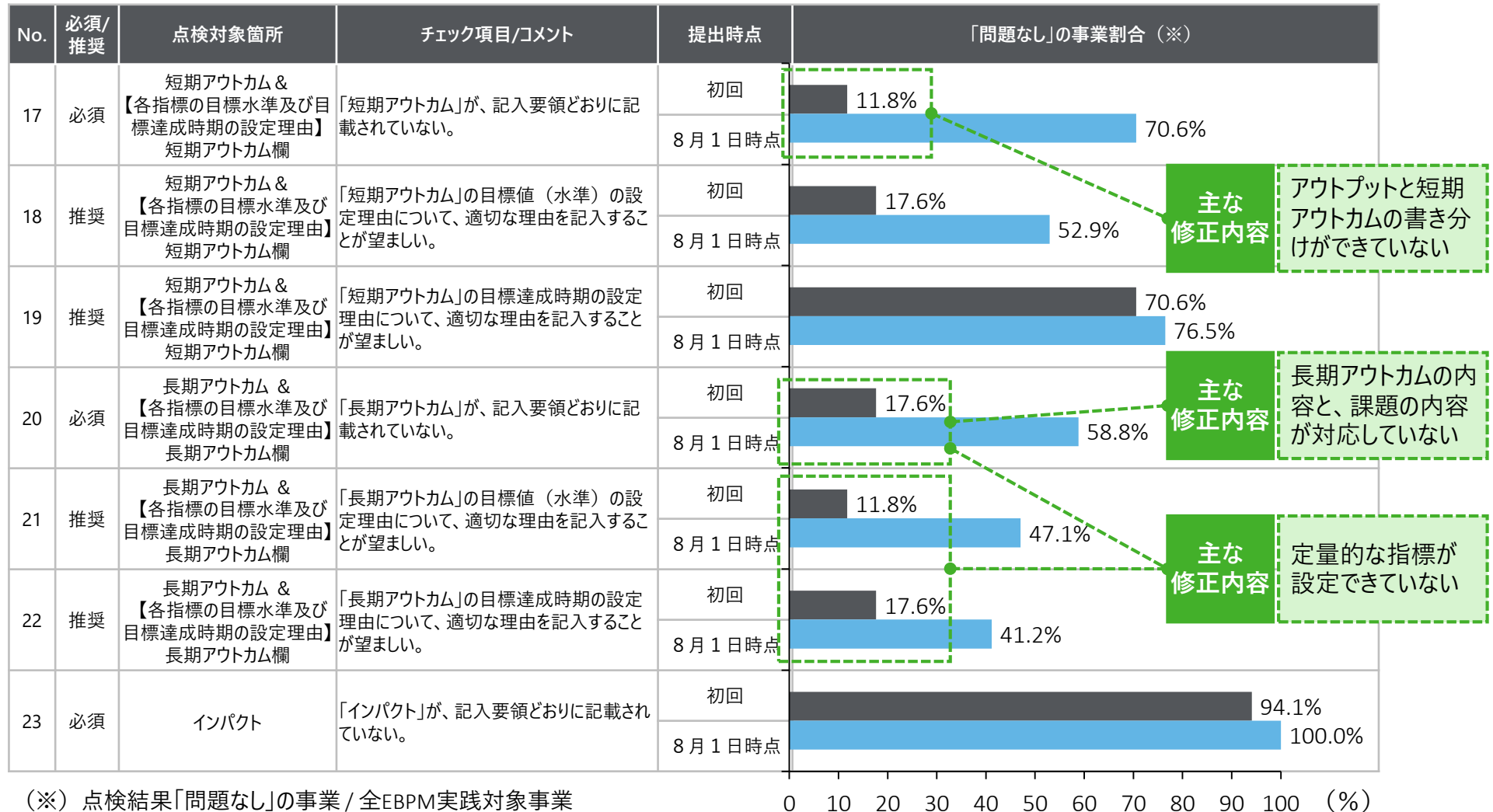
■：初回評価時点で、「問題なし」と判断された事業の割合
■：8月1日時点で、「問題なし」と判断された事業の割合



短期アウトカムについてはアウトプットとの書き分けができていない事業、長期アウトカムについては定量的な指標が設定できていない等の事業が多く見受けられた

各項目の点検結果③ 短期アウトカム・長期アウトカム・インパクト

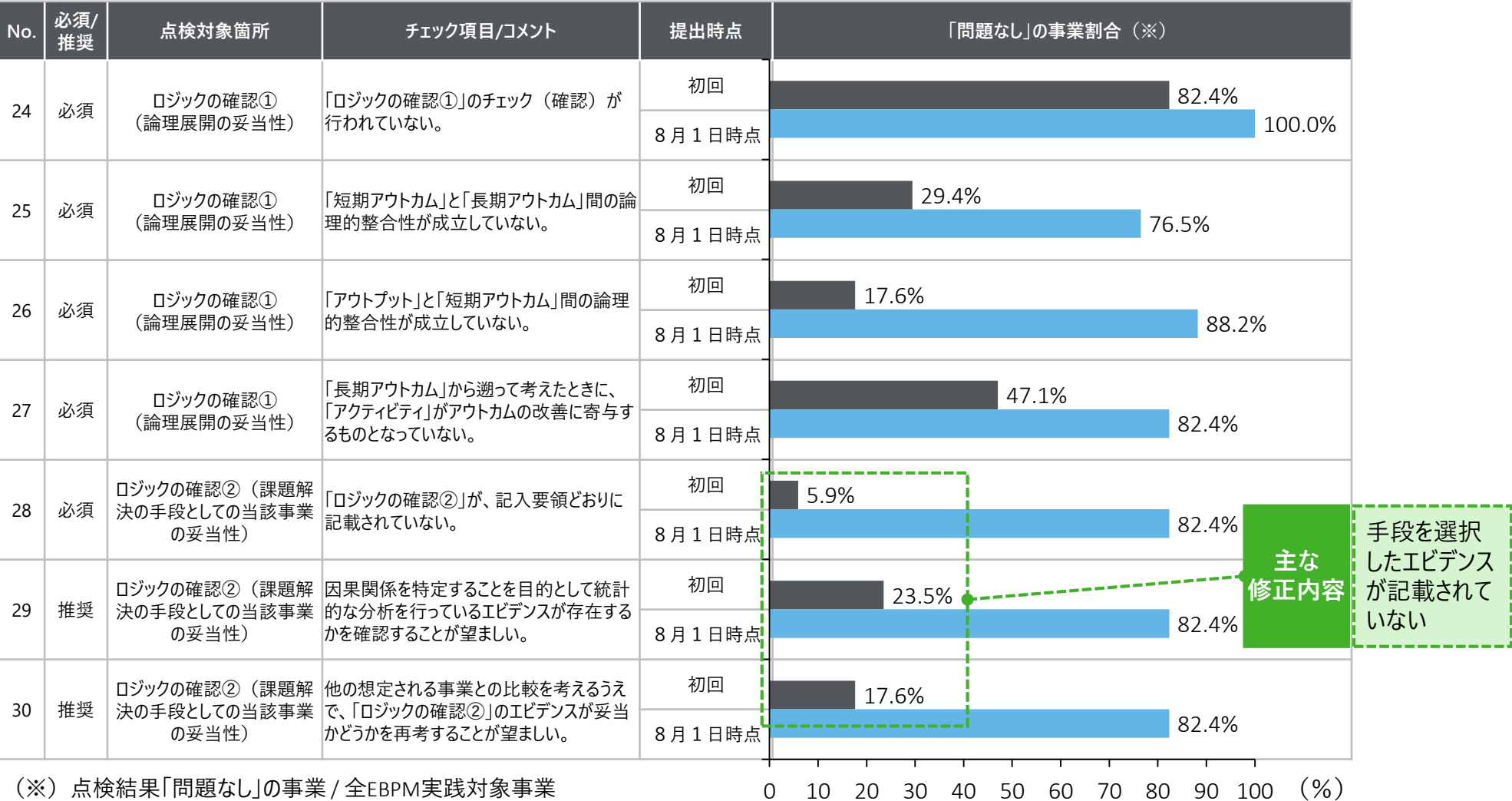
■：初回評価時点で、「問題なし」と判断された事業の割合
■：8月1日時点で、「問題なし」と判断された事業の割合



ロジックの確認は、事務局の点検を経て、8割程度が「問題なし」と判定できる記載内容となった。ロジックの確認②については、エビデンスの不備が主な修正内容であった

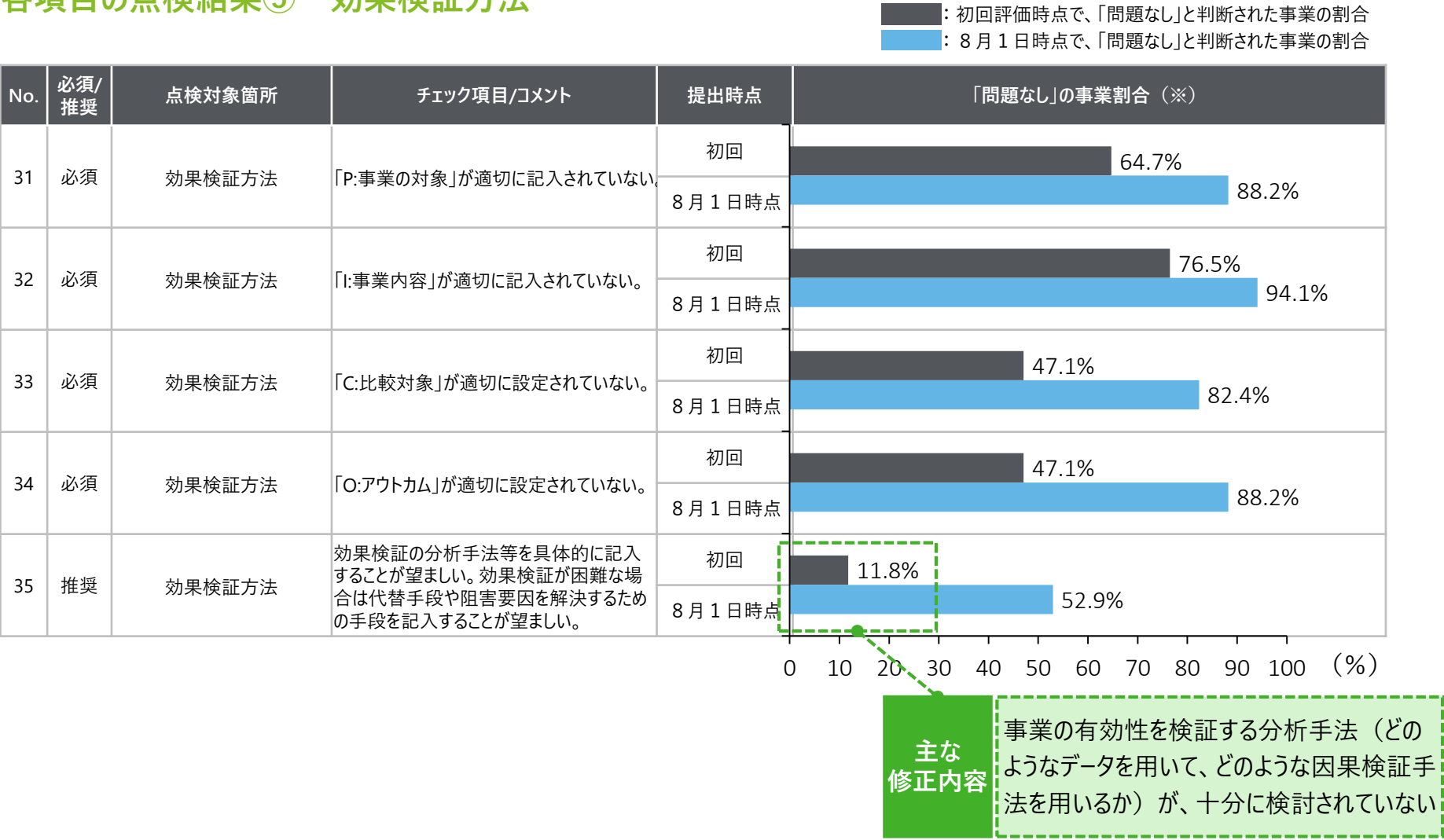
各項目の点検結果④ ロジックの確認①・ロジックの確認②

■：初回評価時点で、「問題なし」と判断された事業の割合
■：8月1日時点で、「問題なし」と判断された事業の割合



効果検証方法は、事務局の点検を経て、5 ～ 9 割程度が「問題なし」と判定できる記載内容となった。分析手法は、十分に検討されていない事業が多く見受けられた

各項目の点検結果⑤ 効果検証方法



（※）点検結果「問題なし」の事業 / 全EBPM実践対象事業